

〈謎の指揮者〉と〈負け組楽団員〉が巻き起こす、笑いと涙の本格的音楽エンタテインメント!

# 〈謎の指揮者〉と〈負け組楽団員〉で名門オーケストラ再結成!? 復活コンサートの秘密が明かされたとき、奏でられる【人生の交響曲】に、感動の拍手が止まらない!

## 松坂桃李、西田敏行が 楽器演奏&指揮に初挑戦! miwa、映画初出演!!

舞台に映画にと精力的に活動する実力派、松坂桃李と、日本映画界の顔、西田敏行が初共演。それぞれ初めてとなる楽器演奏&指揮にも挑戦し、演奏シーンでも演技派ぶりを発揮!そして、10代に圧倒的な人気を誇るシンガー、miwaが映画初出演!天才フルート奏者あまねを天真爛漫に演じる。一癖も二癖もある【負け組】楽団員と、彼らを周りからサポートする人々を個性豊かに演じるのは、古舘寛治、濱田マリ、河井青葉、嶋田久作、中村倫也、松重豊などベテランから若手まで揃った演技派俳優陣。

原作は第12回文化庁メディア芸術祭で最優秀賞を受賞した、さそうあきらの「マエストロ」(双葉社刊)。監督は『毎日かあさん』のヒットも記憶に新しい小林聖太郎。脚本には『八日目の蟬』で日本アカデミー賞最優秀脚本賞を受賞した奥寺佐渡子。元名門オーケストラの人間模様が鮮やかに描かれる。

## 世界的指揮者・佐渡裕 奇跡のピアニスト・辻井伸行 最高峰の音楽家が全面参加!!

指揮指導・指揮演技監修には日本を代表するマエストロ、佐渡裕が日本映画初参加。クライマックスで流れる、佐渡指揮、ドイツの名門ベルリン・ドイツ交響楽団演奏のベートーヴェン「運命」とシューベルト「未完成」は、スタンディングオベーションしたくなるほどの高揚感! エンディングテーマは、奇跡のピアニスト辻井伸行によるオリジナル。撮影現場を訪れイメージを膨らませて作曲された名曲は、映画の感動を優しく包み込む。世界的音楽家2人の奏でる【本物の音楽】が、映画全体に興奮と感動を与えてくれる。

クラシック音楽では定番中の定番である「運命」「未完成」をモチーフに《オーケストラ》のイメージを一新。50人それぞれが奏でる【音】が響き合った時、初めて【音楽】となる。その一瞬を共有し、誰かと響き合うことで、「運命」は変えられることを描いた、笑って泣ける《感動オーケストラ・エンタテインメント》が誕生した!

### 教えて!マエストロ!

♪「運命」の基礎知識

ベートーヴェン作曲の交響曲第5番を通称「運命」と呼んでいます。冒頭の「ジャジャジャーン」が何を表す音かという問いに、ベートーヴェンが「運命はこのような扉を叩く」と答えたことに由来しています。正確には「ン・ジャジャジャーン」と休符から始まるため、音を揃えるのが難しいのです。

Q:指揮者(=マエストロ)とは、どういう仕事なの?

野球で例えるならば監督に当たり、プレーヤーである演奏者に対して様々な注文を付け、一つの形にしていきます。単に本番を指揮するだけでなく、その曲をどのような音楽にするかを研究し、リハーサルでは自分の中で出来上がっている音楽をオーケストラに伝え、よりよいものに仕上げていくことが重要となります。

Q:コンサートマスター(=コンマス)ってどういうもの?

オーケストラメンバーの代表で、オーケストラのとりまとめ役です。一般には第一ヴァイオリンがその職を担います。指揮者の意図をくみ、演奏またはオーケストラ全体にも合図を出すように演奏することもあります。指揮者との関係は良好であればあるほど良いのですが、時としてここでの主導権争いもおこることも?!

### 【ストーリー】

若きヴァイオリニスト香坂のもとに、解散した名門オーケストラ再結成の話が舞い込む。だが、練習場は廃工場、集まったメンバーは再就職先も決まらない「負け組」楽団員たちと、アマチュアフルート奏者のあまね。久しぶりに合わせた音はとてもプロとは言えないもので、不安が広がる。そこに現れた謎の指揮者、天道。再結成を企画した張本人だが、経歴も素性も不明、指揮棒の代わりに大工道具を振り回す。自分勝手な進め方に、楽団員たちは猛反発するが、次第に天道が導く音の深さに皆、引き込まれていく。だが、香坂は名ヴァイオリニストだった父親が死んだ裏には天道が関係していた事を知り、反発を強めてしまう。あまねのひた向きに音楽に取り組む姿勢を目の前にしながらも素直になれない香坂。

そして、迎えた復活コンサート当日、楽団員たち全員が知らなかった、天道が仕掛けた“本当”の秘密が明らかになる――。

